

研究発表もうしこみフォーム

氏名：那日蘇

氏名のローマ字表記：NARISU

所属：千葉大学大学院博士後期課程1年

専門分野：日本語学・対照言語学

発表のタイトル：モンゴル語の第三人称所属語尾 ni の用法について

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表はモンゴル語の第三人称所属語尾 ni に関して、ni は用法として「主題」と「排他」を表すと結論づけた上で、どのような条件のもと「主題」「排他」という用法を表すのかを、日本語の取り立て助詞「は」との対照という手法を用いて、記述しようとするものである。

モンゴル語の先行研究では「主題」を表す形式として bol と ni が取り上げられ、両者について以下のように指摘されている。

(i) bol, ni 両方とも「主題」を表す(ナラントヤ 2006)。

(ii) bol は主題を表すが、ni は主題を表さない(賽希雅拉図 2014)。

(iii) ni は主題、トピック標示、排他を表す(風間 2003、橋本 2006、ナラントヤ 2006)。

以上を踏まえて、発表者は那日蘇 2018 において、ni は「主題」を表す形式だと位置づけた。しかし、「主題」を表しにくい場合もあり、その多くの場合は「排他」を表していることも明らかにした。しかし、那日蘇 2018 では ni がどのような条件で「主題」や「排他」を表すことができるのかについて明らかにできなかった。本発表はこれを受けてその条件を検討するものである。

検討の方法としては、主に、電子版中国蒙古語新聞から ni の用例を収集した上で、日本語において「主題」と「排他」を表すとされる取り立て助詞「は」に関する知見も参照しながら、ni が「主題」と「排他」を表す条件を検討する。検討する際の着目点としては、現在のところ ni の上接語の品詞、統語的位置、ni を用いて主題にできる格成分や叙述の種類などを考えている。

本発表は、これまで明らかにされてこなかったモンゴル語 ni の用法の使い分け条件を示すことにより、モンゴル語学に一定の知見を提供できる点、また、日本語学における取り立て助詞研究についても新たな視点を提供できる点において意義のあるものとする。

[参考文献]

風間申次郎 (2003) 「アルタイ諸言語の3グループ(チュルク、モンゴル、ツングース)、および朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか — 対照文法の試み」『日本語系統論の現在』 pp. 249-337 国際日本文化研究センター

賽希雅拉図(2014)『日本語とモンゴル語の主題マーカ―の対照研究』大阪府立大学大学院博士論文

ナラントヤ (2006) 「モンゴル語の主題小辞“bol” “ni” — 日本語の助詞「は」「が」との対照を通して」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』6, pp. 23-40

那日蘇(2018)『モンゴル語の ni に関する研究—日本語の「は」との対照を通して—』千葉大学大学院人文公共学府提出修士学位論文(未公刊)

橋本邦彦 (2006) 「モンゴル語の3人称後接語のトピック標示/焦点表示」『認知科学研究』4, pp. 7-23